

Excel-kintone 連携アドイン  
V2.3  
マニュアル

2018/6/25

NCSサポート&サービス株式会社

# 目次

1. Excel-kintone連携アドインの使い方 全般について	4
1. 1 Excel-kintone連携アドインの動作環境	4
1. 2 基本的な使用法	4
(1) 独自にVBAで業務を開発する	4
(2) 楽々Excel-kintone連携ツールで業務を開発する	4
1. 3 kintoneの項目と、フィールドコード、タイプについて	5
1. 4 VBAの参照設定について	5
1. 5 一覧表(複数レコード一括処理)と単票(単独レコード処理)について	5
1. 6 アドインで扱えないタイプについて	6
1. 7 接続パラメータの設定と実行結果	6
1. 8 複雑なパターンの帳票などへの対処	7
1. 9 アドインの実行	7
1. 10 オプションの設定	8
2. データ取得(単票)の設定について	9
2. 1 設定シートの書き方	9
(1) kintone側定義	9
(2) Excel側定義	10
(3) 検索条件指定の補足	10
(4) 検索条件自由指定	11
(5) リッチエディター項目のExcel文字装飾変換	11
2. 2 設定シート作成の注意点	11
(1) 検索キー	11
(2) 作成者、更新者	12
(3) ユーザ選択	12
(4) テーブル(サブテーブル)の繰り返し	12
(5) チェックボックス(CHECK_BOX)、複数選択(MULTI_SELECT)の繰り返し	13
(6) 2次元の繰り返し	13
(7) 日時項目の取り扱い	14
(8) 複数行文字列項目の取り扱い	14
(9) 添付ファイルの取り扱い	14
3. データ取得(一覧表)の設定について	16
3. 1 設定シートの書き方	16
(1) 呼び出し時の設定	16
(2) ALL指定について	17
(3) 項目定義の書き方(相違点)	17
(4) 添付ファイルの取り扱い	17
3. 2 設定シート作成の注意点	18
(1) 基本的な使い方の例	18
(2) 対象Excelシートの初期化	18
(3) 一覧表におけるテーブルやチェックボックスなどの繰り返しの扱い	18
(4) 一覧表に固定項目を表示したい場合	19
4. データ登録・更新(単票)の設定について	20
4. 1 基本的な使用法	20
4. 2 登録・更新時の注意点	20
(1) 登録・更新ができない項目について	20
(2) 更新時のレコード番号について	20
(3) 選択肢のある項目について	20
(4) 更新時のリビジョン番号について	21
4. 3 レコード中に、テーブルがある場合の扱い	21
4. 4 登録／更新モード(あれば更新、なければ登録)の扱い	21

5.	データ登録・更新(一覧表)の設定について	22
5.1	基本的な使用法	22
	(1)ALL指定について	22
5.2	レコード中に、テーブルがある場合の扱い	23
5.3	添付ファイルのアップロード	23
6.	アドイン関数の呼出し	24
6.1	kintoneからのデータ取得	24
6.2	kintoneへのデータの登録・更新	24
6.3	文字列のUTF-8エンコード	25
6.4	文字列のBASE64エンコード	25
6.5	ログイン名:パスワードのアドインへの設定	25
別紙	既知の問題点・制限事項	26
	1 Excel連携アドインで取り扱いえない項目	26
	2 テーブルの扱いの制限	26
	3 検索の制限	26
	4 設定シートの記入ミスによる実行時エラーの発生	27
	5 複数アカウントの同時使用による実行時エラーの発生	27
	6 アドイン処理中にExcelブックを切り替えた場合の誤動作	27
	7 Excel 64ビットばんでの制限 (V2.3では解消)	27
	8 アプリのJavaScriptとの関係	27
別紙	kintoneアプリ「フォームの設定」で設定する項目の仕様	28
別紙	設定シート	29

※このマニュアルは、Excel-kintone連携アドイン Ver 2.3 以降に対応しています。

※V1.xxの設定シートには対応していません。V2.0以後の楽々ツール、設定シートをお使いください。

# 1. Excel-kintone連携アドインの使い方 全般について

## 1.1 Excel-kintone連携アドインの動作環境

Excel-kintone連携アドイン(V2.30以上)は、以下の環境で動作します。

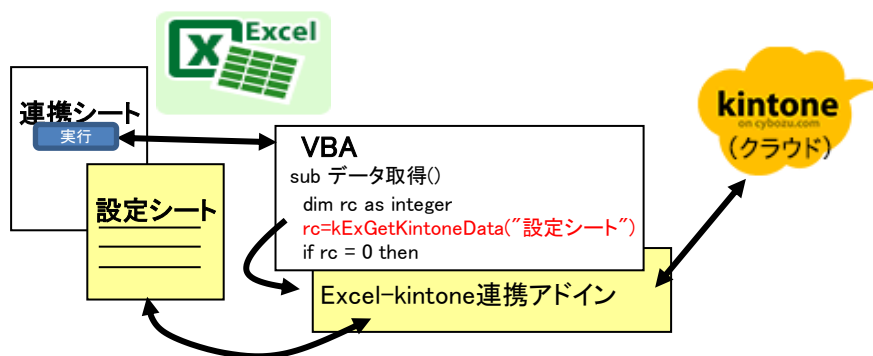
OS: Windows 7 以上のWindows OS (32ビット版、64ビット版のどちらでも可)  
Office: Microsoft Office 2010以上 (32ビット版、64ビット版のどちらでも可)

※ Windows Vista、Office2007はMicrosoftのサポートが終了しているため動作保障対象外です。  
※ kintoneは、スタンダードコースのライセンスが必要です。

## 1.2 基本的な使用法

### (1) 独自にVBAで業務を開発する

VBAでの開発が可能な場合、連携したいExcelにアドインの関数を組み込み、業務の仕様に合わせてExcelにkintoneのデータを取得したり、Excelのデータでkintoneを更新したりすることができます。



- ①開発者は連携するExcelブックに、設定シートを挿入し、kintoneの項目定義とExcelの対応を記述します。
- ②Excelのユーザ操作・入力をマクロ化したVBAを作成し、その中からアドイン関数を呼び出します。
- ③アドイン関数は設定シートの内容に従い、kintoneと通信してデータを取得、登録、更新します。

利用者は、kintoneの存在を意識することなく、Excelの操作だけでクラウド上のデータを扱うことができます。

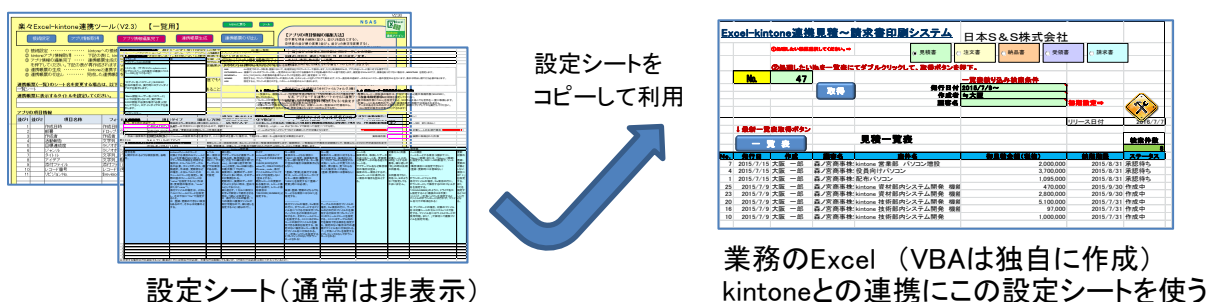
本書では、主に開発者向けに、設定シートの記述方法とアドインの活用方法について記載します。

### (2) 楽々Excel-kintone連携ツールで業務を開発する

楽々Excel-kintone連携ツール(以下、「楽々ツール」と略記)を使えば、VBAでプログラミングする必要なくExcelとkintoneを連携するExcel業務が、簡単に開発できます。

楽々ツールの使い方については、「導入・評価手順書」および「楽々Excel-kintone連携ツール(使い方)」を参照ください。

楽々ツールでは、設定シートを内部で生成しています。この設定シートは誤操作防止のため非表示になっていますが、設定シートを表示させ、シートを他のExcelブックにコピーして、独自に開発したVBAプログラムから利用することが可能です。  
一から手作業で設定シートを記述しなくてよいので、業務開発の手間を削減できます。



連携アドイン用設定シートを自動作成するために、楽々ツールを利用する例です。

### 1. 3 kintoneの項目と、フィールドコード、タイプについて

kintone側の項目を識別するのに、フィールドコードとタイプを用います。  
フィールドコードとタイプは、楽々ツールで取得することができます(「導入・評価手順書」を参照)。  
また、項目のタイプによってアドインでの扱い方が異なります  
詳しくは、別紙「kintoneアプリ「フォームの設定」で設定する項目の仕様」を参照してください。  
※以後、「項目仕様」と略記します。

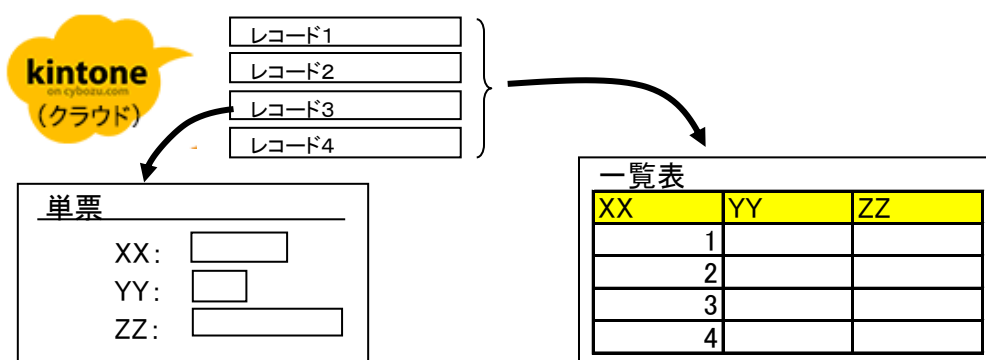
### 1. 4 VBAの参照設定について

VBAからアドインを使うために、kintoneSubsの参照設定が必要です。  
「導入・評価手順書」を参照して、設定してください。

### 1. 5 一覧表(複数レコード一括処理)と単票(単独レコード処理)について

一覧表と単票では処理の仕方が異なります。

一覧表: 1回の処理で、kintoneの複数レコードを一括で取得・更新・登録する  
単票: 1回の処理で、kintoneの1レコード(1件)のみを取得・更新・登録する



なお、kintoneでは1件のレコードの中にテーブル(サブテーブル)を持つことができるので、単票であっても、繰り返し項目を持つことがあります。

設定シートでは、単票は単票用設定シートで、一覧表は一覧表用設定シートで設定します。

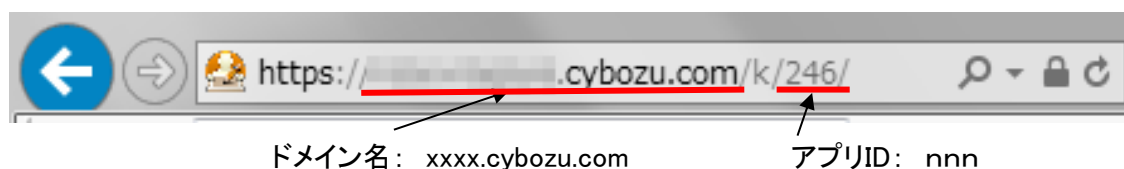
## 1.6 アドインで扱えないタイプについて

kintoneのAPIの制限、および連携アドインの制限によって、扱えないタイプの項目があります。  
詳しくは、別紙「項目仕様」を参照してください。

## 1.7 接続パラメータの設定と実行結果

まず設定シートの接続パラメータを設定します（楽々ツールを利用すれば簡単に設定できます）。  
楽々ツールによる設定方法は、「導入・評価手順書」を参照してください。

以下は、手動で設定する場合の手順です。  
まずドメイン名とアプリケーションIDを、対象とするkintoneアプリのURLから指定します。  
kintoneのアプリをブラウザで表示し、URLを見てください。（下図）



1. 接続パラメータ	
パラメータ	値
アプリケーションIDの値	
ドメイン名（サブドメイン.cybozu.com ※ゲストスペースの場合は最後に「#スペースID」をつけること）	
「ログイン名:パスワード」(BASE64) 空白の場合は、実行時にログインダイアログを表示します。	
「Basic認証ユーザー名:パスワード」 ここでは指定しないが、実行時にBASIC認証が必要な場合「必要」と記入して下さい。ログインダイアログを表示します。	
ライセンスキー	

※アプリケーションID欄には、URLに示された数字を入力します。

※ドメイン名の欄には、URLより xxxx.cybozu.com を入力します（xxxxのところがサブドメインです）。  
ゲストスペースの場合はスペースIDを#で続けます。  
例: xxx.cybozu.com#123

※ログイン名:パスワードは、kintoneにログインするためのログイン名とパスワードを「:」でつなぎ、BASE64エンコードした文字列を入力します。  
（これは楽々ツールで作成できます）

※ログイン名:パスワードは省略可能です。省略時はアドインの最初の呼び出し時にダイアログが表示され、ログイン名とパスワードの入力を要求されます。

※BASIC認証の欄は、kintoneでBASIC認証を使う契約をしている場合に使用します。  
使用しない場合は空白でかまいません。

※ライセンスキー欄には、弊社から通知したアドインのライセンスキーをハイフン付で入力します。

### 【注意点】

一つのExcelブックには複数の設定シートを含めることができますが、ログイン名:パスワードは共通にしてください。複数のログイン名で同時にアクセスすることはできません。  
（いったんExcelを終了して実行しなおすことは可能です）

V2.2より、ログイン名には日本語も使えるようになりました。

実行時に、kintoneから異常が返ってきた場合は、設定シートの実行結果セルに転記されます。

2. 実行結果	
エラー発生時の返却データ	致命的エラー発生時は、戻り値が-9となり、 ←エラー文字列がここに設定されるので、参照すること ←エラー時のURL（登録／更新の成功時はレコード件数を表示）

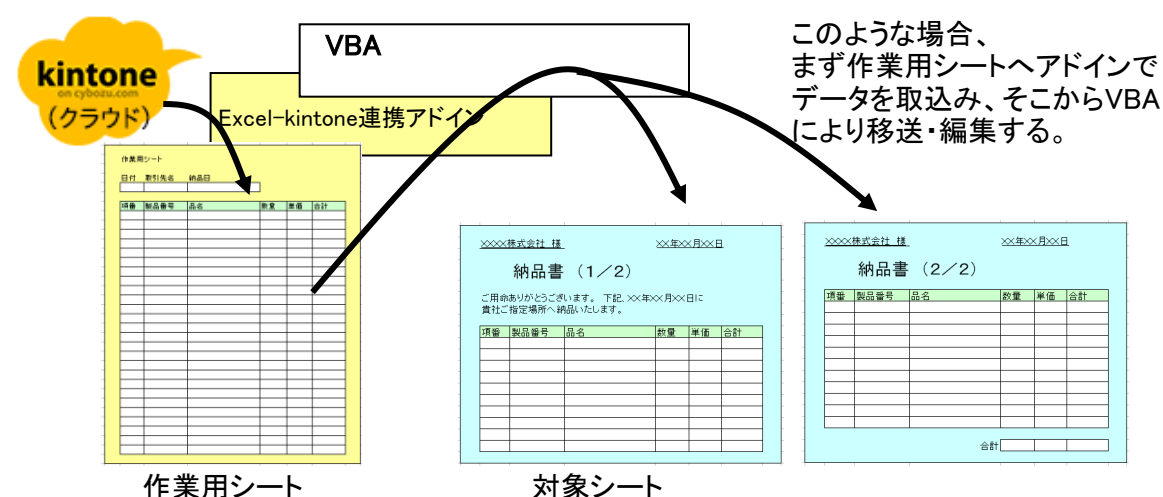
※動作確認が終わったら、設定シートは誤操作を防ぐため非表示にしておくことをお勧めします。

## 1.8 複雑なパターンの帳票などへの対応

アドインでは直接対応が難しいような複雑なパターンのExcelシートには、いったん簡単な構造の作業用シートへアドインでデータを取得し、VBAでそこから対象のシートに移送・編集する方法があります。

(例)

シートが2ページにわかれ、それぞれ書式が違ような場合アドインでは直接データを取得することができません。

[illegible]

## 1.9 アドインの実行

楽々ツールを使えば、実行可能なExcel-kintone連携シートが簡単に作成できます。  
独自にプログラムされる場合は、設定シートと連携対象のExcelシートを同じブックに登録し、VBAからアドイン関数を呼び出すことで、kintoneアプリのデータとExcelとが連携できます。

### ①データ取得

- ・設定シート名を指定してアドイン関数を呼び出します。(6章を参照)

### 1) 単票の場合の注意点

- ・データ取得時は、キー項目を設定して、どのレコードを取得するかを指定します。

## 2)一覽表の場合の注意点

- ・データ取得時は、オフセット、最大取得件数、NEXT行番号を設定して実行します。
- ・特にNEXT行番号は、対象シートのどの行からデータを転記するかとの指定となるので注意が必要です。
- ・最大取得件数にALLを指定した場合は、NEXT行番号から、kintoneにあるデータの全件が(キー項目や検索条件が指定されていればそれで絞り込まれた結果が)対象シートに取得されます。(楽々ツールではALLが規定値となっています)

## ②データ登録・更新

- ・登録・更新の場合は、対象シートにあらかじめ登録・更新するデータを記入しておきます。
- ・更新の場合、既存データのレコード番号が必要です。一度データ取得してから、それを更新するようにすれば確実です。
- ・既存更新や新規登録の場合は、対象レコード行番号の指定が必要です。
- ・対象レコード行番号は、更新対象の行番号をカンマで区切ったり、ハイフンでつないで指定します。対象レコード行番号にALLを指定した場合は、対象シートにある全件が登録・更新対象となります。
- ・V2.1より、kintone1にデータがあれば更新、なければ登録ができるモードが追加されました。楽々ツールではこのモードが規定値となっています。

## 1. 10 オプションの設定

設定シートには規定の動作以外の設定を行うため、オプションパラメータの指定ができます。指定できるオプションパラメータには以下のものがあります。

パラメータ	一覧/単票	設定内容
BAR	両方	ALL指定でのデータ取得・更新において、処理状況をプログレスバーで表示します。 ただし取得時の%は、アプリの全レコード数に対する数字です。
PICTURESIZE=nxm	一覧	画像ファイルのダウンロード時、一覧用のセルに貼り付ける画像のサイズを横x縦のポイント値で指定します。(規定値は100x100)
NOPICTURE	両方	画像ファイルのダウンロード時、ダウンロードのみ実行して、画像を対象シートのセルに貼り付けない場合に指定します。
RICHFONT=n	両方	RICH_TEXT(EXCEL)の変換時の基準フォントサイズを指定します。 規定値は 11 です。
NOMSG	両方	指定すると、アドインで致命的エラーが発生した時、メッセージをダイアログで表示せず、設定シートの「エラー発生時の返却データ」のセルにエラー値の設定のみを行います。 エラー表示は呼出し側のVBAで行う必要があります。 (独自VBAで開発する場合に検討が必要です)
LOG	両方	指定すると、アドインの実行ログを、設定シートの右側のセルに表示します。問題が発生した時の調査に使用します。

各オプションは、設定シートの「オプション」欄に指定します。

【オプション】:	
	↑ 実行時オプション(複数ある場合はカンマで区切る)を指定します。
BAR,NOMSG,PICTURESIZE=200x200 のように、半角カンマで区切って複数指定できます。	

なお、V2.30以前の設定シートにはオプション欄がなく、それぞれのパラメータを指定するセルが個別に用意されています。設定シートの説明に従って指定してください。  
V2.0以後の設定シートであれば、古い設定シートでも互換性があり、そのまま利用が可能です。



## 2. データ取得(単票)の設定について (一覧用と共通の項目についても記載)

### 2.1 設定シートの書き方

単票形式のExcelシートに、kintoneのレコードを1件取得する場合は、「単票用設定シート」を使用します。

3. KintoneフィールドコードとExcel連携指示(設定項目)				※ 項目の書式はExcel側で設定しておくこと						
kintone側定義				Excel側定義						
項目名 人間がわかるような項目説明。省略可。	kintoneフィールドコード 対象とする項目のみフィールドコードを定義し、その下にサブテーブルの項目を利用する場合、01レベルにテーブル名が必要。チェックボックス、複数選択、作成者、更新者などの場合、上位レベルにそのフィールドコードを指定し、実際の値のフィールドコードは「value」を指定すること(作成者・更新者の場合は「code」または「name」)。 ※ 登録・更新のできない項目もあるため、それらは対象外とする。	レベル 単一項目は空白(または01)。 サブテーブルなど下位項目がある場合、01, 02, 03で指定	繰り返し サブテーブルなど複数データがある時、集団項目に指定。行を下に繰り返す時「Ntimes」、右に繰り返す時「Ntimes」指定。Ntimesは繰り返しの最大数(1でも可)。 ※ 検索時に、実際のデータがそれより多い時は、そのデータは無視される。 ※ 更新時に、実際のデータがそれより少ない時は、空白セルとしておくこと。 ※ 繰り返し指定は、1セルに区切り文字「a」で区切って結合させる時は、「結合a」指定する。 ※ 添付ファイルの場合、1つの項目に複数ファイルが添付可能なため、繰り返し指定すること(結合以外)。	タイプ kintoneの項目タイプ(TYPE)をその項目に指定する。 CHECKBOXなどのvalueや、CREATORなどのname、code、添付ファイルのfileについてはタイプを指定しない(空白とする)。 ※ 既存レコードの更新の際は、レコード番号が必須で、レコード番号項目は「RECORD_NUMBER」指定する。 ※ 添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードするファイル名につける付加文字(プレフィックス)をどの項目から付加するか、そのフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合はレコード番号がファイル名に付加される。 (「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)	キー項目 検索のキーとなる項目に「SKEY」を指定。検索条件値をキー項目に指定する。キー項目は空白の場合は検索条件値とならない。 ※「登録／更新」を実行する場合、レコードをユニークにするキー項目(複数可)に「UKEY」を指定する(「登録／更新」時には必須)。 ※ 検索・登録・更新のどちらでもキーとなる項目には「KEY」を指定する。 ※ 添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードするファイル名につける付加文字(プレフィックス)をどの項目から付加するか、そのフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合はレコード番号がファイル名に付加される。 (「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)	キー値 検索のキー項目に対するキー値を指定する。検索のたびに、プログラムから設定すれば良い。レコードが見つかった場合、戻り値0、見つからなかった場合は-1が返る。 (登録・更新時には意味なし)	シート名 検索時は、取得したデータの送り先シート名。更新時は更新データのある送り元シート名。 ※ サブテーブル名など集団項目の場合は空白。 ※ 検索のキー項目とするが、Excelシートには表示しない項目の場合も空白とする。	対象セル(列番号) 対象シート上の、A列を1とする列番号。繰り返し指定が「行」の時は先頭の列番号。 ※ 列番号でなく、列名(A, Bのような)で指定してもかまいません。	対象セル(行番号) 対象シート上の、1行を1とする行番号。繰り返し指定が「列」の時は先頭の行番号。 ※ 行番号でなく、行名(1, 2のような)で指定してもかまいません。	更新対象外 対象セル(行番号)に「x」を指定する。また、「結合」指定するとコメント行となる。 ※ アップロードの場合、対象のファイル名は対象シートのセルにフルパスで指定する。ファイル名にはフィールドコードが使用可能。また、「」で区切って複数ファイルを指定可能。

※設定シートの行が不足する場合は追加してください(ただし最下行は終了判定のため空白行とする)。

#### (1) kintone側定義

列	設定内容	説明
B	項目名称	業務内容に即した項目名称を記入します(省略可)。
C	フィールドコード	kintoneのフィールドコードを記入します(必須)。 Excel側で使わない項目を記入する必要はありません。
D	レベル	通常の項目は構造をもたない単独項目なので、レベルは1(空白でも可)です。 テーブルの配下に含まれる項目、チェックボックスや複数選択の値、作成者の名前、添付ファイルのfileなどは、上位の項目(集団項目)を持つので、レベル2となります。 テーブル中にあるチェックボックスの値などは、さらに下位となるので、レベル3となります。 ※構造を持つ項目かどうかは、別紙項目仕様を参照してください。
E	繰り返し	項目がテーブル、チェックボックス、複数選択の場合は、繰り返しを設定できます。 テーブルに指定した場合は、その配下の項目全体に、チェックボックスや複数選択に指定した場合は、その値に対して繰り返しが適用されます。 繰り返しは行方向か、列方向かを指定できます。チェックボックスや複数選択の場合は、繰り返しせずに1セルの中に値を結合することも可能です。 <div> <div>行3</div> <div> <div>行方向</div> <div>A</div> <div>B</div> <div>C</div> </div> <div>列3</div> <div> <div>列方向</div> <div>A</div> <div>B</div> <div>C</div> </div> <div>結、'</div> <div>A、B、C</div> <div>1セル内結合</div> </div> <p>実際のデータ数が指定した繰り返し数より少ない場合は、残りは空白となり、指定した繰り返し数より多い場合は、指定された数までが取得されます。 項目が添付ファイルの場合も、列または行の繰り返し設定が必要です。</p>
F	タイプ	項目のタイプを記入します。 チェックボックスや複数選択の値(value)、作成者や更新者のcodeやname、添付ファイルのfileには、タイプはないので、空白とします。
G	キー項目 (データ取得時)	検索キーとなる項目には「KEY」と入力します。キーの値は、次のキー値で設定します。 キー項目は複数設定可能です。 チェックボックスや複数選択をキー項目とする時は、親項目(レベル1の項目)に指定します(valueの項目ではありません)。この時、選択肢の中に1つでも一致するものがあれば検索されます。 ※自由指定の検索条件を記述した場合、この設定は無視されます。 ※V2.30から、検索のみで使うキーには「SKEY」が指定できます。 「SKEY」を指定した項目は、登録／更新ではキーとして扱いません。
	キー項目 (登録／更新時)	「登録／更新」(データがあれば更新、なければ登録)の機能を使う場合、レコードをユニークに決定する項目に「KEY」を指定することが必須です(複数可)。 この場合、キー値の項目は設定不要です。 ここでKEY指定した項目のExcel上の値が、kintone1に存在するかが事前に検索され一致するレコードがある場合はそれを更新し、なければ新規登録となります。 ※登録／更新時は、テーブル中の項目や複数選択の項目はKEYにできません。 ※V2.30から、登録／更新のみで使うキーには「UKEY」が指定できます。 「UKEY」を指定した項目は、検索ではキーとして扱いません。

G	添付ファイル名の レコードごとの 付加文字項目	添付ファイルの場合（フィールドコードがfileの行）、この列には、ダウンロードするファイル名に付加してレコードごとにユニークとなるような項目の、フィールドコードを指定できます（指定ない場合はレコード番号が使用されます）。例えば社員番号の項目を指定した場合、ファイル名は1234_filename.jpgのように社員番号とアンダーバーがファイル名に付加されます、ファイル名に付加文字列を付けない場合は半角ハイフン「-」を指定します。 ※楽々ツールでは「-」が規定値となります。
H	キー値 (データ取得時)	キーの値を設定します。アドインでは、キー項目がこのキー値と一致するデータを検索します。単票形式の場合、複数一致しても取得されるのは1件のみです。通常、キー値は他シートを参照するか、VBAから実行時に設定します。 ※自由指定の検索条件を記述した場合、この設定は無視されます。 ※キー項目指定があってもキー値が空白の場合は、検索条件となりません。 ※直接値を指定せず、他シートセルの値を参照するような指定も可能です。 ※V2.2からは、カンマで区切って複数の値を指定したり(例「10,20,30」) 「～」を使って以上、以下の指定もできます(例「2016/4/1～2016/4/30」)
H	テーブル内添付ファイルの テーブル行ごとの 付加文字項目	テーブル内の添付ファイルの場合（フィールドコードがfileの行）、ダウンロードするファイル名に付加してテーブル行ごとにユニークとなるような、同じテーブル内の項目のフィールドコードを指定できます（指定ない場合は行番号が使用されます）。ファイル名は、レコードごとの付加文字_行ごとの付加文字_ファイル名となります。ファイル名に付加文字列を付けない場合は半角ハイフン「-」を指定します。 ※楽々ツールでは「-」が規定値となります。

## (2) Excel側定義

I	シート名	転記する対象のExcelシート名を入力します(設定シートと同じブックにあること)。テーブル、チェックボックス、複数選択、作成者、更新者については、実際の値は下位の項目に持つので、シート名は空白とし、対象セルも指定しません。
J K	対象セル(列番号) 対象セル(行番号)	転記するExcelシートのセルを列番号・行番号で指定します。 ※列番号は、列名(A,Bなど)で指定してもかまいません。 ※繰り返しのある場合は、その先頭の項目の行または列を指定します。 ※繰り返しのある場合、その数の連続したセルが必要です。結合セルは不可です。
L	更新対象外	登録・更新の対象としない項目には「×」を指定します。 また「C」を指定するとコメント行となり、アドインでは無視されます。
M	ダウンロードフォルダ名	添付ファイルの場合、file項目の行に、添付ファイルをダウンロードして保存するPCのフォルダ名を指定します。 「C:¥AAA¥BBB」のように、ドライブ名から指定すること(最後の¥は不要) 半角ハイフン「-」を指定すると、実際のダウンロードは行わず、セルにファイル名だけが取得されます。(画像の貼り付けも行われません) ※アップロード時は、連携対象シートの対応するセルごとに、ファイル名をフルパスで指定が必要です。なおV2.2からは、ファイル名のみを指定した場合、ダウンロードフォルダがフォルダ名として利用されます(この場合「-」は不可)。

## (3) 検索条件指定の補足

- ・一致検索で、チェックボックスや複数選択をキーにした場合、選択肢が一つでも一致すればそのレコードが検索されます。同様にテーブル中の項目の場合も、テーブルの中に一つでも一致するものがあれば、そのレコードが検索されます。
- ・検索は、キー値との一致検索、カンマで区切った複数值とのOR検索、～を指定した以上～以下検索ができます。  
「A,B,C」のように、半角カンマで区切って複数值を指定した場合は、AまたはBまたはCのOR検索となります。  
「～A」はA以下、「A～」はA以上、「A～B」はA以上かつB以下の検索となります。  
例: 「2017/04/01～2017/12/31」(2017年4月1日から12月31日までのデータが検索される)
- ・条件値に半角カンマや「～」を含む場合は、ダブルコーテーションで囲む必要があります。  
例: 「"XYZ Co.,Ltd."」、「"あ～と"」
- ・条件値の先頭に全角記号の「≠」(ノットイコール)を付けると、NOT検索ができます。  
例: 「≠東京」(「東京」以外の値をもつものが検索される)
- ・文字列項目に限り、条件値の先頭に全角記号の「≒」(ニアリイコール)を付けると、LIKE検索ができます。  
例: 「≒東京」(文字列に「東京」を含むものが検索される)

#### (4) 検索条件自由指定

↑ 自由に検索条件を指定する場合、ここにkintoneの検索条件式を書きます。ここに条件式を書いた場合は、下記のキー項目・キー値の指定は無視されます。
---

「自由に検索条件を設定する」の欄に、kintoneで可能な検索条件を自由に設定することができます。  
 ※この場合、設定シートの「キー項目」「キー値」の設定は無視されます。(データ取得時)  
 ※設定した内容はアドインではチェックされず、コード変換のみを行ってkintoneに渡されます。  
 kintoneの仕様に合わせた設定を行ってください。誤った記述をするとエラーとなります。  
 ※条件の記載方法は項目タイプによって異なります。詳しくはkintoneのWEBサイトにあるAPIのマニュアルを参照してください。下記に主なものを示します。

- ・基本的な書き方: 「フィールドコード 演算子 値」  
 フィールドコードは、演算子の前に記述します。演算子の後には記述できません。
- ・式を「( )」でグループ化できます。  
 例 (数値\_0 >= 10 and 数値\_0 <= 20) or (数値\_1 >= 100 and 数値\_1 <= 200)

演算子	例	意味
=	文字列_0 = "テスト"	フィールドコードの値と演算子の後に指定した値が一致
!=	文字列_0 != "テスト"	フィールドコードの値と演算子の後に指定した値が異なる
>	数値_0 > 10	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値より大きい
<	数値_0 < 10	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値より小さい
>=	数値_0 >= 10	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値以上
<=	数値_0 <= 10	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値以下
in	ドロップダウン_0 in ("A", "B")	フィールドコードの値が、演算子の後の括弧内に列挙した文字列のいずれかと一致するレコードが抽出されます。 ドロップダウンやラジオボタンなどの選択式のフィールドで指定した選択肢が選択されたレコードを抽出する場合に使います。 左の例では、ドロップダウンリストで「A」か「B」が選択されているレコードが抽出されます。
not in	ドロップダウン_0 not in ("A", "B")	フィールドコードの値が、演算子の後の括弧内に列挙した文字列といずれとも一致しないレコードが抽出されます。
like	文字列_0 like "テスト"	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値を含む
not like	文字列_0 not like "テスト"	フィールドコードの値が、演算子の後に指定した値を含まない
or	数値_0 < 10 or 数値_0 > 20	2つの条件式の論理和
and	数値_0 >= 10 and 数値_0 <= 20	2つの条件式の論理積

- ・日付はkintoneの書式で指定する必要があります。(2015/10/30 ではなく 2015-10-30 とする)  
 例 営業日 >= "2015-04-01" and 営業日 <= "2015-04-30"

#### (5) リッチエディター項目のExcel文字装飾変換

kintoneのリッチエディター項目(タイプ「RICH\_TEXT」)は、そのままExcelのセルに取得すると、HTMLの文字列となります。これをタイプとして「RICH\_TEXT(EXCEL)」で指定すると、文字色や文字サイズ、太字、下線や取消し線などをExcelの文字装飾に変換して取得できます。

- ※ただし、変換したデータでkintoneへ書き戻すことはできません。登録・更新が必要な場合は、RICH\_TEXTを使用してください。(両方の指定をしておくくと便利です)
- ※変換できるのは、Excelと互換のある文字装飾項目のみです。インデントやリストには対応しません。
- ※RICH\_TEXT(EXCEL)を使う場合、設定シートの変換時の基準フォントサイズを指定できます。  
 これはExcel側の文字サイズの基準サイズをどうするか設定します。規定値は11です。  
 変更する場合は、設定シートの「オプション」欄へ、RICHFONT=n (nはフォントサイズ)を指定します。

## 2.2 設定シート作成の注意点

### (1) 検索キー

- ・検索キー項目は、項目がチェックボックス、複数選択の場合、親項目に対して指定すること。
- ・アドインの仕様により、作成者、更新者、ユーザ選択、組織選択、グループ選択の項目は検索キーに指定できません。Kintoneの仕様に従えば、検索条件自由指定での検索は可能です。
- ・キー値を設定シートに移送する際、予期せぬ変換がされないよう、Excelの書式に注意が必要。  
 01などの数字は文字列にしないと先頭0が消えて検索されます。日付や時刻は標準書式でないとしリアル値になる場合があり、その場合は、設定シートのセルの書式変更が必要です。
- ・キー値は「=対象シート!D5」のように他シートのセルを参照することができます。ただし、この場合空白値が0となって、予期せぬ結果となる場合があるため、入力セルは標準書式とし、関数は「=IF(対象シート!D5="", "", 対象シート!D5)」のように指定すると確実です。

## (2) 作成者、更新者

- ・作成者(CREATOR)、更新者(MODIFIER)の項目は集団項目になるので注意(シート名は空白)。  
以下のように指定します。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	キー項目	キー値	シート名
作成者	1		CREATOR			
name	2					Sheet1

項目名はレベル1の集団項目となり、実際の値はレベル2となる。

フィールドコードはユーザコードが「code」、ユーザ名が「name」となる。(タイプは指定しない)

- ・作成者、更新者の登録・更新はできません。更新不可項目「×」に設定してください。

## (3) ユーザ選択

- ・kintoneに登録されたユーザから選択する項目(USER\_SELECT)は、繰り返し項目であり、さらに下位に「code」と「name」をもつ集団項目となります。
- ・ユーザ選択で更新できるのは「code」のみで「name」はExcelからの登録・更新はできません。更新不可項目「×」に設定してください。

## (4) テーブル(サブテーブル)の繰り返し

- ・テーブルは、レベル1の集団項目にテーブルのフィールドコードを指定します。
- ・テーブル項目の終了は、次の項目のレベルが1か空白になる時で判断します。
- ・テーブル配下の項目はレベル2(以上)となるので、必ずレベルを指定すること。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	キー項目	キー値	シート名
テーブル1	1	行10	SUBTABLE			
項目01	2		SINGLE_LINE_TEXT			Sheet1
項目02	2		SINGLE_LINE_TEXT			Sheet1

- ・繰り返しは、集団項目の行に、「行nnn」または「列nnn」の形で指定します。  
nnnはExcelシート上の最大繰り返し数。(1でも可)
- ・実際のデータがnnnより少ない場合、余ったセルには空白が設定されます。  
実際のデータがnnnより多い場合、余ったデータは無視されます
- ・繰り返しは、行方向(下方向)でも列方向(右方向)でも指定可能だが、その方向にnnn個の連続したセルが必要です。(1つおきに移送といったことはできません)

### 行方向に指定の例

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
家族構成	1	行5	SUBTABLE		
名前	2		SINGLE_LINE_TEXT	1	3
続柄	2		SINGLE_LINE_TEXT	2	3
性別	2		SINGLE_LINE_TEXT	3	3
年齢	2		NUMBER	4	3

繰り返しの最初の行を指定

### kintoneのテーブル・データ(家族構成)

	名前	続柄	性別	年齢
1	花子	配偶者	女	45
2	一郎	子	男	18
3	次郎	子	男	15
4	舞子	子	女	10
5				

### 対象シート

	1	2	3	4
1	家族構成			
2	名前	続柄	性別	年齢
3	花子	配偶者	女	45
4	一郎	子	男	18
5	次郎	子	男	15
6	舞子	子	女	10
7				

同じデータで、列方向に指定の例

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
家族構成	1	列5	SUBTABLE		
名前	2		SINGLE_LINE_TEXT	1	3
続柄	2		SINGLE_LINE_TEXT	2	3
性別	2		SINGLE_LINE_TEXT	3	3
年齢	2		NUMBER	4	3

対象シート

繰り返しの最初の・列を指定

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	家族構成(1)				家族構成(2)				家族構成(3)				家族構成(4)				家族構成(5)			
2	名前	続柄	性別	年齢	名前	続柄	性別	年齢	名前	続柄	性別	年齢	名前	続柄	性別	年齢	名前	続柄	性別	年齢
3	花子	配偶者	女	45	一郎	子	男	18	次郎	子	男	15	舞子	子	女	10				

#### (5) チェックボックス(CHECK\_BOX)、複数選択(MULTI\_SELECT)の繰り返し

- ・チェックボックス、複数選択は集団項目であり、実際の値は繰り返し項目となります。
- ・チェックボックス、複数選択のフィールドコードはレベル1(テーブル内にある時はレベル2)となり、レベル2(テーブル内ではレベル3)に"value"を設定します。そこに実際のデータ(選択値)が入ります。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ
ChekBox1	1	列3	CHECK_BOX
value	2		
ChekBox2	1	列1	CHECK_BOX
value	2		

選択枝の最大数を繰り返し数とする。  
(1でも良い。指定以上に選択データ  
があったら、それは無視される)

- ・チェックボックス、複数選択で、繰り返しの所に「結'〇'」と書けば、1つのセルに複数の値を結合できます。(シングルクォーテーションで囲んだ〇が区切り文字となります。区切り文字は「または」などの文字列でも可)

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
ChekBox1	1	結'、'	CHECK_BOX		
value	2			2	4

選択枝 2  
4 東京、大阪、千葉

#### (6) 2次元の繰り返し

- ・テーブルの中に、チェックボックスや複数選択の項目がある場合、2次元の繰り返しとなります。
- ・この時、レベル1はテーブルで、レベル2がチェックボックス等です。
- ・2次元の繰り返しの時、レベル2は列方向とするか、あるいは結合させる必要があります。行方向にしてもかまいませんが、表の構造が複雑になり、わかりにくくなる可能性があります。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
Sub_Table_1	1	行5	SUBTABLE		
出発日	2		SINGLE_LINE_TEXT	1	2
行き先	2	列3	CHECK_BOX		
value	3			2	2
担当者	2		SINGLE_LINE_TEXT	5	2

kintoneのデータ

出発日	行き先	担当者
5月10日	東京 大阪	田中
5月11日	名古屋 金沢 新潟	石田

(行き先はチェックボックスで  
選択枝から3つまでを表示とする)

対象シート

1	2	3	4	5
1	出発日	行き先		担当者
2	5月10日	東京	大阪	田中
3	5月11日	名古屋	金沢	新潟
4				



- ・上記で、行き先を「結、'」とすると、選択結果を1セルに結合できます。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
Sub_Table_1	1	行5	SUBTABLE		
出発日	2		SINGLE_LINE_TEXT	1	2
行き先	2	結、'	CHECK_BOX		
value	3			2	2
担当者	2		SINGLE_LINE_TEXT	3	2

対象シート	1	2	3
1	出発日	行き先	担当者
2	5月10日	東京、大阪	田中
3	5月11日	名古屋、金沢、新潟	石田
4			

- ・上記の例で、レベル1(テーブル)が列方向、レベル2(チェックボックス)も列方向の例

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	行
Sub_Table_1	1	列2	SUBTABLE		
出発日	2		SINGLE_LINE_TEXT	1	3
行き先	2	列3	CHECK_BOX		
value	3			2	3
担当者	2		SINGLE_LINE_TEXT	5	3

対象シート	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	旅行プラン1					旅行プラン2				
2	出発日	行き先1	行き先2	行き先3	担当者	出発日	行き先1	行き先2	行き先3	担当者
3	5月10日	東京	大阪		田中	5月11日	名古屋	金沢	新潟	石田

#### (7) 日時項目の取り扱い

- ・kintoneの「日時」項目はUTC形式で定義されているが、アドインでは日本時間に変換されます。  
※日時(DATETIME)、作成日時(CREATED\_TIME)、更新日時(UPDATED\_TIME)の項目です。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ
作成日時			CREATED_TIME

kintoneのデータ  
2013-04-12T07:52:00Z

対象シート	作成日時
	2013/4/12 16:52

- ・日時以外のkintoneの日付、時刻項目は「2013-04-12」や「16:52」といった文字列として扱われます。  
Excelに移送するとExcelの日付、時刻となるので、適当に書式を設定すること。

#### (8) 複数行文字列項目の取り扱い

- ・kintoneの「MULTI\_LINE\_TEXT」(複数行テキスト)項目は、Excelのセル内で改行が発生します。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ
客先コメント			MULTI_LINE_TEXT

kintoneのデータ  
本日はありがとうございました。  
¥n明日もよろしくお願いいたします。  
¥n

対象シート	
	本日はありがとうございました。 明日もよろしくお願いいたします。

#### (9) 添付ファイルの取り扱い

- ・kintoneの添付ファイル「FILE」項目は、1つの項目に複数ファイルが登録できます。  
このため、Excel連携では繰り返し項目として扱う必要があります。  
添付ファイルのフィールドコードは集団項目として記述し、ファイルの実体はその下のレベルでフィールドコードを「file」として指定します。  
また、添付ファイルはサブテーブルの中にも記述できます。  
※添付ファイルの繰り返しは「列」または「行」で指定してください。  
・添付ファイルはダウンロードされると同時に、指定セルにそのフルパス名が転記されます。

【通常の添付ファイル】(レコードごと)

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ		フォルダ名
添付ファイル	1	列2	FILE	～	
file	2				C:\test

【サブテーブル中の添付ファイル】(レコードごと、かつテーブル行ごと)

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ		フォルダ名
サブテーブル	1	行10	SUBTABLE	～	
添付ファイル	2	列1	FILE		
file	3				C:\test

【ダウンロードしたファイルのファイル名付加文字(プレフィックス)】

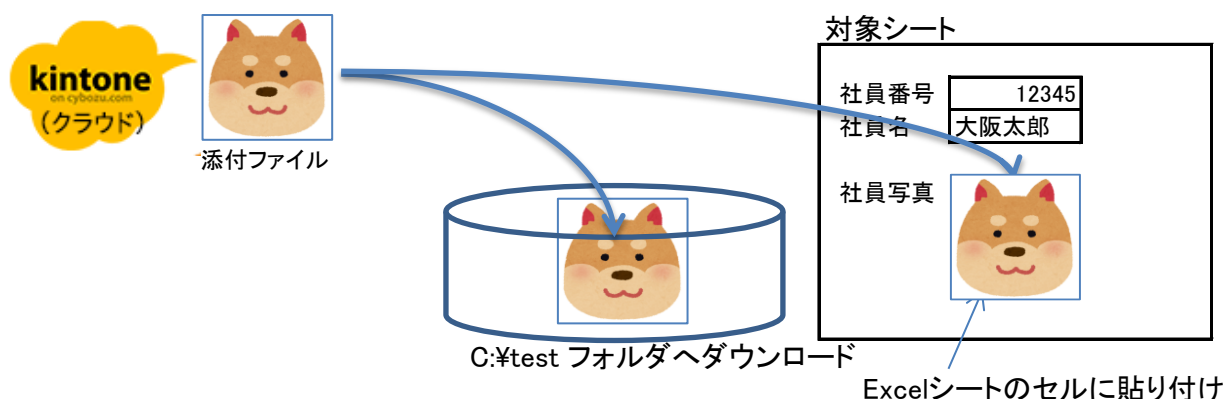
- ・添付ファイルは指定したローカルフォルダへダウンロードされます。同じファイル名であれば上書きされてしまうため、レコードごと、テーブルの行ごとに付加文字(プレフィックス)をつけて、区別できるようにすることができます。(fileの行に指定します)
- ・設定シートで、レコードごと、またテーブルの行ごと(サブテーブル中の場合)に識別可能な項目のフィールドコードを指定すれば、その内容がファイル名の先頭にプレフィックスとして付加されます。(ファイル名=レコードごとの付加文字\_行ごとの付加文字\_本来のファイル名)
- ・付加文字のフィールドコード指定を省略した場合、レコードごとの付加文字は、レコード番号が、行ごとの付加文字は、その行のレコード内での連番が設定されます。
- ・レコードごと付加文字は「キー項目」の列で、行ごと付加文字は「キー値」の列で設定します。

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	キー項目	キー値		フォルダ名
サブテーブル	1	行10	SUBTABLE			～	
添付ファイル	2	列1	FILE				
file	3			社員番号	登録日		C:\test

- ※ プレフィックスのついたファイルをアップロードした場合、ファイル名にはプレフィックス付の名前でアップロードされます。このファイルをもう一度ダウンロードした時、設定シートで指定したプレフィックスと同じ名前であれば、二重に付加されることはありません。
- ※ プレフィックスを付加せずに、ファイル名をそのまま扱いたい場合は、付加文字列として「-」(半角ハイフン)を指定してください。この場合ファイル名は変更されず、重複する場合は上書きされます。(楽々ツールで作成した場合は「-」が規定値となります)
- 【添付ファイルのダウンロードを行いたくない場合】
- ・添付ファイル(画像を含む)のダウンロードを行いたくない場合は、フォルダ名に「-」(半角ハイフン)を指定してください。ファイルはダウンロードされず、対象セルにファイル名のみが取得されます。

【画像ファイルの扱い】

- ・添付ファイルが画像ファイルの場合、その画像が指定したセルに貼り付けられます。



- ・指定した行・列のセルに、ファイル名が(ドライブ名からのフルパスで)転記され、画像ファイルの場合は、その上に画像が貼り付けられます。
  - ・単票の場合、画像は指定したセルの大きさに貼り付けられます。大きな画像にするためには、あらかじめセルを結合して大きなセルにしておく必要があります。
- ※ 画像ファイルをダウンロードしたいが、対象シートに画像の貼り付けを行いたくない場合は、設定シートの「オプション」欄に「NOPICTURE」を指定してください。

3. データ取得(一覧表)の設定について

3.1 設定シートの書き方

一覧表形式のExcelシートに、kintoneのレコードを複数件一括取得する場合は、「一覧表設定シート」を設定します。

3. KintoneフィールドコードとExcel連携設定(一覧表)		複数レコード一括取得の時、各レコードごとの一覧表項目を指定します。検索時は、一覧表NEXT行番号を初期値として、取得レコードごとに行が追加されます。 登録・更新時は、対象レコード行番号で指定された行のデータがレコードとして登録・更新します。		kintone側定義		Excel側定義	
項目名 人間がわかるような項目説明。省略可。	kintoneフィールドコード 対象とする項目のみフィールドコードを定義どおりに記入。サブテーブルの項目を利用する場合は、01レベルにテーブル名を必須、チェックボックス、複数選択、作成者、更新者などのフィールドコードを指定し、実際のフィールドコードはvalueを指定すること(作成者・更新者の場合は、codeまたはname)。 ※ 登録・更新のできない項目もあるので、それらは対象外とする。	検索 単一項目は空白(または[] )。サブテーブルの場合は、01レベルにテーブル名を必須、チェックボックス、複数選択、作成者、更新者などのフィールドコードを指定し、実際のフィールドコードはvalueを指定すること(作成者・更新者の場合は、codeまたはname)。 ※ 登録・更新のできない項目もあるので、それらは対象外とする。	繰り返し サブテーブルなど複数データがある時、集約項目に指定。行ごとに繰り返す時「1回」、右に繰り返す時「列数」と指定。N回に繰り返しの最大値(1でも可)。 ※ 検索時に、実際のデータがそれより多い時は、そのデータは無視される。 ※ 更新時に、実際のデータがそれより少ない時は、空白セルとしておくと、繰り返しは文字で区切って結合させる時は、「結合」と指定する。 ※ 添付ファイルの場合、1つの項目に複数ファイルが添付可能なので、繰り返しを指定すること(補足以外)。	タイプ kintoneの項目タイプ(TYPE)をそのまま指定する。 CHECK BOXなどのvalueや、CREATORなどのname、code、添付ファイルのfileについてはタイプを指定しない(空白とする)。 既存レコードの更新がある場合は、レコード番号が必須で、レコード番号項目は「RECORD_NUMBER」と指定する。 ※ 添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードするファイル名をつける付加文字(プレフィックス)をこの項目から付加するか、そのフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合はレコード番号がファイル名に付加される。(「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)	キー項目 検索のキーとなる項目に「KEY」を指定。検索条件値をキー値に指定する。キー値が空白の場合は検索条件とならない。 「登録/更新」を実行する場合は、レコードキーに「LUKEY」を指定する(「登録/更新」時には必須)。 ※ 検索・登録・更新のどちらもキーとなる項目には「KEY」を指定する。 ※ 添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードするファイル名をつける付加文字(プレフィックス)をこの項目から付加するか、そのフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合はレコード番号がファイル名に付加される。(「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)	シート名 検索時は、取得したデータの送り先シート名。更新時は更新データのある送り先シート名とする。シート名はサブテーブル名など集約項目の場合は空白。 ※ Excelシートには表示しない項目の場合も空白とする。	対象セル(列番号) 検索時は、取得したデータの送り先シート名。更新時は更新データのある送り先シート名とする。シート名はサブテーブル名など集約項目の場合は空白。 ※ Excelシートには表示しない項目の場合も空白とする。

※設定シートの行が不足する場合は追加してください(ただし最下行は終了判定のため空白行とする)。

一覧表では、1レコードが対象Excelシートの1行となり、「一覧表NEXT行番号」に指定された行から、1行ずつ下方向に繰り返し移送されます。

一覧表NEXT行番号: 5 ←対象シートの先頭行番号(初期設定必須！)

対象シート

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11

勤務実績報告書

氏名	年月日	曜日	休日出勤	勤務開始	勤務終了	残業時間

(1) 呼び出し時の設定

一覧表形式の場合、VBAからアドインを呼び出す際に、オフセット、最大取得件数、NEXT行番号の設定が必要となります。これらは通常、VBAから設定シートへ、実行時に設定してアドインを呼び出します。

- ・オフセット: 全体の何件を読み飛ばした後からレコードを取得開始するか(先頭からの場合0)の数字
- ・最大取得件数: 一度に取得する最大のレコード件数(1以上、500以下 またはALL)
- ・NEXT行番号: 対象シートの何行目から取得レコードを移送するかの行番号

オフセット(読み飛ばし): (0~)

最大取得件数: (1~500 またはALL)

一覧表NEXT行番号: ←対象シートの先頭行番号(初期設定必須！)

実取得件数: ←実際に取得された件数

kintoneの仕様として、一度に取得できるレコード数が500件までと制限されています。このため、500件以上のデータがある場合、アドインを複数回繰り返し呼び出す必要があります。

- ・通常、1回目はオフセット:0、最大取得件数:500とし、2回目以後はオフセットに500ずつプラスします。
- ・NEXT行番号の初期値はVBAで設定しておく必要があります。2回目以後は、アドインが自動設定します。レコードを取得して移送した後の、次の行番号がセットされます。
- ・対応するデータがない場合は、アドインの戻り値に-1が返却されます。
- ・データが取得できた場合は、戻り値は0で、設定シートの実取得件数に取得したレコード件数が設定されます。この実取得件数が、最大取得件数より小さかった場合は、これ以上データはないとわかります。



## (2) ALL指定について

- ・Ver.2.0以降のアドインでは、上記にかかわらず、最大取得件数欄に「ALL」と記入することにより、1回のアドイン呼び出しで、kintoneアプリの全レコードを、500件以上あっても一度に取得することができます。(条件指定をすれば、絞り込んだ結果を全件取得できます)
- ・この場合、他に設定が必須な項目は「一覧表NEXT行番号」のみです。
- ・ALL取得のとき、設定シートのオプション欄に「BAR」と指定すると、取得の進行状況をプログレスバーで表示します(%はアプリの全レコード数に対しての数字です)。
- ・ALL取得のとき、対象シートの指定は1種類のみが可能です。

## (3) 項目定義の書き方(相違点)

項目定義の書き方は、基本的には単票の場合と同じなので、ここでは相違点のみを説明します。

列	設定内容	説明
J	対象セル(列番号)	一覧表では対象セルは列番号のみ指定します。 ※列番号は列名(A、Bなど)で指定してもかまいません。 行番号は、一覧表NEXT行番号から自動的に設定されます。
K	ソート項目	一覧の、複数レコードの並び順を設定できます。 “Nasc”(昇順)または“Ndesc”(降順)を指定します。(Nは1～9のソート順) ソート項目が指定できるのは、単独項目のみで、テーブル内の項目や チェックボックス、複数選択などでは不可です。
K	ダウンロードフォルダ名	添付ファイルの場合、file項目の行に、添付ファイルをダウンロードして保存する PCのフォルダ名を指定します。 「C:¥AAA¥BBB」のように、ドライブ名から指定すること(最後の¥は不要) 半角ハイフン「-」を指定すると、実際のダウンロードは行わず、セルにファイル名だけ が取得されます。(画像の貼り付けも行われません) ※アップロード時は、連携対象シートの対応するセルごとに、ファイル名をフルパス で指定が必要です。なおV2.2からは、ファイル名のみを指定した場合、ダウンロード フォルダがフォルダ名として利用されます(この場合「-」は不可)。

※添付ファイルのダウンロードフォルダ名は、一覧表設定シートでは、ソート項目の列に設定します。

## (4) 添付ファイルの取り扱い

一覧表の場合でも、基本は単票の場合と同様ですが、次の相違点があります。

### ①繰り返しは列方向を推奨

一覧表で、添付ファイル項目についての繰り返し指定は列方向を推奨します(下図)。  
行方向の設定も可能ですが、1レコード1行の原則から外れてわかりにくくなる可能性があります。

対象シート

氏名	生年月日	写真		
大阪太郎	S58.1.1			
東京花子	H4.8.20			

→ 複数あれば、列方向へ繰り返し

### ②画像ファイルの貼り付け先セルは、結合セルは不可

一覧表で、添付ファイルの貼り付け先セルは、複数セルを結合したセルは不可です。  
列・行が1つに決まるセルが対象になります。  
対象セルが結合されていると、誤動作の原因となります。

### ③画像ファイルの貼り付けサイズは、全て同じで、指定したポイントサイズとなります。

一覧表では、上記の理由から、セルを結合して大きなサイズにすることはできません。  
画像のサイズは、設定シートのオプション欄に、横×縦のポイントサイズで指定します。  
(指定のない場合は、100X100となります)  
対象シートのセルのサイズがそれより小さい場合は、行の高さやセルの幅が、画像が  
収まるサイズに拡張されます。

### 3.2 設定シート作成の注意点

#### (1) 基本的な使い方の例

kintoneのデータ

年月	日	氏名	出発地	行き先	交通機関	交通費
2013年6月	4	日本太郎	京橋	森ノ宮	JR	120
2013年6月	5	日本太郎	京橋	大阪	JR	160
2013年6月	6	日本太郎	森ノ宮	天王寺	地下鉄	230

設定シートの設定値 オフセット(読み飛ばし):

最大取得件数:

一覧表NEXT行番号:

特に理由がなければ最大件数(500)で設定  
件数制限したい場合はその件数を設定する

1回目の呼び出しの初期値として設定

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	フット項目
日			NUMBER	2	1asc
出発地			SINGLE_LINE_TEXT	3	
行き先			SINGLE_LINE_TEXT	4	
交通機関			SINGLE_LINE_TEXT	5	
交通費			NUMBER	6	

一覧表では列番号のみ指定。  
行番号は、一覧表NEXT行番号の値が、呼び出しごとの初期値として使われ、移送後に更新される。

対象シート	1	2	3	4	5	6	7
1	交通費伝票						
2							
3		日	出発地	行き先	交通機関	交通費	
4		4	京橋	森ノ宮	JR	120	
5		5	京橋	大阪	JR	160	
6		6	森ノ宮	天王寺	地下鉄	230	
7							
8							
9							
10							

取得後

設定シートの返却値

実取得件数:

一覧表NEXT行番号:

3件のデータが取得され、NEXT行番号は7行となった。

#### (2) 対象Excelシートの初期化

- ・単票の場合、対象シートはアドイン実行時に自動的に初期化されるが、一覧表の場合は自動的に初期化されません。  
メインのVBAで、アドイン呼び出し前にクリアしておく必要があります。  
※ALL指定した場合は一覧表でも対象シートは自動的に初期化されます。

#### (3) 一覧表におけるテーブルやチェックボックスなどの繰り返しの扱い

- ・レコード中にテーブルやチェックボックスなどがある時、単独レコードと同様に、繰り返しを設定します。  
ただし、いずれの場合も、繰り返しは列方向とすることを推奨します。
- ・チェックボックスや複数選択の場合は、結合して1セルにするのがお勧めです。
- ・繰返し項目を行方向に設定した場合、1レコードは1行とならず、行方向繰返しの最大行数が1レコードの行数となります(テーブルを行繰返して、その中にさらに行繰返しがある場合はその掛け算した行数)。繰返しのない項目は先頭行にのみ表示されます。  
表の構造が複雑になりわかりにくくなるため、行方向繰返しは推奨しません。

設定シートの例

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列
氏名	1		SINGLE_LINE_TEXT	2
家族構成	1	列2	SUBTABLE	
家族氏名	2		SINGLE_LINE_TEXT	3
続柄	2		SINGLE_LINE_TEXT	4
趣味	2	結、'	CHECK_BOX	
value	3			5

対象シートの例

CHECK\_BOXは結合

	2	3	4	5	6	7	8
	家族構成						
	家族(1)			家族(2)			
氏名	氏名	続柄	趣味	氏名	続柄	趣味	↓
西村 一郎	西村 佳奈	配偶者	音楽鑑賞	西村 仁	子	野球、読書	
林 信彦	林 和子	配偶者	読書	林 良介	子	水泳、サッカー	

テーブルは列方向に繰り返し

※ 家族構成の繰り返しを「行2」とした場合の例（推奨しません）

テーブルも行方向に繰り返し

	氏名	家族構成		
	氏名	続柄	趣味	
西村 一郎	西村 佳奈	配偶者	音楽鑑賞	
	西村 仁	子	野球、読書	
林 信彦	林 和子	配偶者	読書	
	林 良介	子	水泳、サッカー	

データの無いセルは空白となる

繰り返し数より実際のデータが少ない場合、データの無い行は空白行となります。  
1レコードの行数は固定です。  
例の場合、1レコード＝2行です。

- (4) 一覧表に固定項目を表示したい場合
- ・一覧表に年度、部門など固定の項目を表示したい場合は、固定項目は「単票用設定シート」、一覧項目は「一覧表設定シート」と2種類のシートを使うことで可能です。
  - ・VBAでそれぞれを呼び出すようにしてください。

単票用設定シート

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	キー項目	キー値	列	行
年月			SINGLE_LINE_TEXT	KEY	2013年6月	2	3
氏名			SINGLE_LINE_TEXT	KEY	日本太郎	4	3

一覧表設定シート

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ	列	ソート項目
日			NUMBER	2	1asc
出発地			SINGLE_LINE_TEXT	3	
行き先			SINGLE_LINE_TEXT	4	
交通機関			SINGLE_LINE_TEXT	5	
交通費			NUMBER	6	

1

2

3

4

5

6

7

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

交通費伝票

年月

2013年6月

氏名

日本太郎

固定項目

日	出発地	行き先	交通機関	交通費
4	京橋	森ノ宮	JR	120
5	京橋	大阪	JR	160
6	森ノ宮	天王寺	地下鉄	230

一覧項目

#### 4. データ登録・更新(単票)の設定について

(一覽用と共通の項目についても記載)

## 4.1 基本的な使用法

- ・検索系と更新系の設定シートは同じシートを共用できます(別々でも可)。  
共用する場合、検索して表示するが更新対象でない項目は更新対象外に「×」を指定します。

※アドインで登録・更新ができない項目について、詳しくは別紙「項目仕様」を参照してください。

対象セル(行番号) 対象シートの1行を1とする行番号。繰り戻しが「行」の時は先語の行番号。	更新対象外 登録・更新の対象としない項目には「×」を指定する。また「0」を指定するとコピー行となる。

ここに「×」を指定

- ・単票(1レコードが1シートに対応)の場合、データ取得と同様に「単票用設定シート」で設定します。
- ・設定シートの書き方は、基本的にデータ検索・取得の場合と同じです。  
検索用のキー項目、キー値の設定は無視されます。
- ・単票からの登録・更新の場合、特別な設定は必要なく、VBAからアドイン関数を「新規登録モード」または「既存更新モード」または「登録／更新モード」を指定して呼び出すだけで登録・更新できます。  
※呼び出し引数の「設定シート」は対象のExcelと同じブックに存在すること。  
※呼び出し引数の「登録レコード番号配列」は新規登録が正常に実行された時、そのレコード番号が整数配列に返却されます。既存更新のモードではリビジョン番号が返却されます。

#### 4.2 登録・更新時の注意点

- (1) 登録・更新ができない項目について
- ・ルックアップによって設定される項目や、計算、ステータス、作業者などの項目は登録・更新できません。(詳しくは「項目仕様」を参照してください)
  - ・またレコード番号、作成日、更新日、作成者、更新者も自動設定されるので、登録・更新の対象にできません。
  - ・これらの項目は(レコード番号を除き)、設定シートに指定しないか、指定する場合は「更新対象外」に×を指定してください。
- (2) 更新時のレコード番号について
- ・既存更新および登録／更新のとき、レコード番号(RECORD\_NUMBER)の項目は必須となります。
  - レコード番号が更新のキーとなるため、対象Excelシートに、更新対象のレコード番号をもつ必要があります。
  - (新規登録時にはレコード番号は空白でかまいません)
  - ・事前にデータ取得したレコード番号をいずれかのセルに設定しておくよう、考慮が必要です。
- (3) 選択肢のある項目について
- ・チェックボックスや複数選択、ドロップダウンやラジオボタンなど、kintone側で選択肢が定義されている項目は、そこに定義されている以外の値を指定できません。
  - ・未定義の値で登録・更新しようとするとエラーとなるので、Excelの入力規則などで、制限しておくのが良いでしょう。

#### (4) 更新時のリビジョン番号について

- ・kintoneのレコードにはリビジョン番号というデータが付加されます。これはレコードが更新されるたびに1アップしていく番号で、更新対象のレコードが最新かどうか、すでに他のユーザによって更新されていないかをチェックするために用いられます。
- ・必須項目ではありませんが、設定シートに設定しておくことをお勧めします。  
フィールドコードは「\$revision」、タイプは「REVISION」となる、レベル1の単独項目です。
- ・Excelシートにリビジョン番号を持っておけば、更新時にチェックされ、もしすでに他のユーザによって先に更新されていた場合はエラーとなり、二重更新を防止できます。  
このエラーとなった場合は最新データを取得して更新をやり直す必要があります。

### 4.3 レコード中に、テーブルがある場合の扱い

- ・単票でのテーブルの扱いは、基本的には検索系と変わりありません。
- ・レコードにテーブルが含まれるとき、既存データの更新時には、テーブルのデータは既存のものが削除されて、全てExcel側のデータで置き換えとなります。  
ただし、更新対象にテーブルの項目を含まない場合は、元のデータが保持されます。
- ・テーブルの繰り返しは、基本的に指定された繰り返し数分が登録されます。  
ただし、1行すべてが空白の場合はその行は登録されません。

対象シート

家族構成			
名前	続柄	性別	趣味
花子	配偶者	女	読書
一郎	子	男	野球、水泳

1行全て空白の場合、空白データが登録されるのではなく、その行はテーブルに登録されない。

- ・テーブルの更新は、常に一括更新となり、一部だけを更新することはできません。  
このため、既存データの更新時には注意が必要です(最新データを取得して、同じ値で更新する等)。

### 4.4 登録／更新モード(あれば更新、なければ登録)の扱い

V2.1から、新規登録、既存更新だけでなく、登録／更新モードが追加されました。これは、データのKEY項目を利用して、kintone側にExcel側のデータとKEYが一致するレコードが存在すればそれをExcel側データで更新し、一致するレコードが存在しなければ新規登録するものです。

この機能を使うためには、設定シートで、レコードをユニークに決定できるキー項目(複数指定でも可)に「KEY」を指定しておく必要があります。  
また、レコード番号の項目も必須となります。ただし、対象シート上のレコード番号の項目内容は空白でもかまいません。KEYで検索して一致したレコードがあったとき、そのレコード番号が設定されます。

KEYは必ずその項目によって(複数の組み合わせであっても)レコードがただ1つに決定できるものでなければなりません(社員番号や、住所・氏名・生年月日の組み合わせなど)。  
もし同じ値をもつ複数のレコードが存在した場合はエラーとなります。

レコード番号とその他のキーが両方存在した場合、レコード番号の一致を優先します。  
例えば、「レコード番号=50、支店名=東京支店」のデータがすでに存在した場合に、「レコード番号=50、支店名=東京北支店」で「登録／更新」すると、支店名のキーは一致しませんが、レコード番号が優先されて、東京支店のデータが東京北支店に更新されます。新規データとして登録したい場合は、レコード番号を空白にしてください。

※V2.30より、登録／更新用のキー項目は「UKEY」と指定することで、検索用キーと分けることが可能になりました。



## 5. データ登録・更新(一覧表)の設定について

### 5.1 基本的な使用法

- ・複数レコードをExcelの一覧表から一括で登録・更新する場合は、その対象とするExcelの行番号をアドインに指定する必要があります。
- ・これは、メインのVBAから、更新対象レコードの行番号を「10,15,16,17,25」のように、半角カンマで区切って、設定シートの「対象行番号」セルに指定します(1行だけでも可)。
- ・連続する行の場合は、10-20のように、ハイフンでつないで指定することもできます。

対象レコード行番号:

ここに設定(必須)

- ・それ以外は、単票からの登録・更新と基本的には同じになります。  
ただし、一度に登録・更新できるのは100件までと決まっているので、レコードが100件以上ある時は、メイン側から対象レコード行番号を100件ずつ指定して、繰り返しアドイン関数を呼び出す制御が必要です。
- ・「対象行番号」に100件以上の行番号を指定しても、101件からは無視されます。

#### (1) ALL指定について

- ・対象レコード行番号に「ALL」と指定すると、対象シートに入力された全てのレコードが登録・更新の対象となります(100件の制限はなく、全行が一括処理されます)。  
※対象シートの、一覧表NEXT行番号で指定された行から、設定シートで指定された項目がすべて空白となっている行まで、その間のすべての行が対象となります。
- ・ALL指定をする場合、対象シートの指定は1種類のみが可能です。

設定シート

対象レコード行番号:  ALL指定

何行目から対象とするかを指定

一覧表NEXT行番号:

項目名称	kintoneフィールドコード	レベル	繰り返し	kintone側定義
調査票No.	レコード番号			
作成日時	作成日時			
作成者	作成者	1		
作成者氏名	name	2		
作成者コード	code	2		

シート名	対象セル(列番)	Excel側定義
調査票一覧	2	1 asc
調査票一覧	3	
調査票一覧	4	
調査票一覧	5	

シート名は全て同じとすること

対象シート

調査票一覧						
調査票No	作成日	担当者	回答者	回答1	回答2	回答3
1	8月1日	大阪一郎	福岡花子	100	60	80
2	8月1日	大阪一郎	長崎義男	80		20
3	8月1日	大阪一郎	広島栄作	50	100	50
4	8月2日	東京太郎	福島恵子	90	80	
5	8月2日	東京太郎	北海三郎	100	70	
6	8月2日	東京太郎	千葉洋子	30	90	

この行は全項目が空白なので、終了行とみなす。  
NEXT行番号で指定された5行目から最終行の10行目までのデータが更新される。

## 5.2 レコード中に、テーブルがある場合の扱い

- 一覧表の場合でも、テーブルの更新は、既存のものが削除され、Excel上のデータからの置き換えとなります。  
繰り返しの数が実際に必要なデータ数より小さい場合、そこまでしか登録・更新できないので、注意が必要です。
- 指定した繰り返し数よりデータが少ない場合は、シート上のデータを空白にしてください。  
テーブル1件分の全項目が空白セルの場合は繰り返しの終わりで見なし、それ以後の繰り返しデータは登録されません。

対象シートの例

CHECK\_BOXを結合

	2	3	4	5	6	7	8
レコード ↓	氏名	家族構成					
		家族(1)			家族(2)		
	氏名	続柄	趣味	氏名	続柄	趣味	
	西村一郎	西村佳奈	配偶者	音楽鑑賞	西村仁	子	野球、読書
	林信彦	林和子	配偶者	読書	林良介	子	水泳、サッカー
	田中三治						
	横山隆	横山恵子	配偶者	バレー			

テーブルは列方向に繰り返し

- 田中さんのレコードには、家族構成(テーブル)は登録・更新されません。
- 横山さんのレコードには、家族構成は横山恵子さん1件のみ登録されます。  
もし横山さんの「家族(3)」にデータがあっても、家族(2)が空白のため、無視されます。繰り返しは、必ず詰めて入力するよう、注意してください。

## 5.3 添付ファイルのアップロード

一覧で添付ファイルをアップロードするには、添付ファイルのセルに、アップロードするファイルのフルパス名を指定する必要があります。  
ただし、そのファイルがダウンロードフォルダとして指定されたフォルダにある場合は、フルパスでなく、ファイル名だけを指定することも可能です。

### 設定シート

フィールドコード	レベル	繰り返し	タイプ		フォルダ名
写真	1	列2	FILE	~	
file	2				C:\test

### 一覧シート

氏名	生年月日	写真	
大阪太郎	S58.1.1	osakataro1.jpg	osakataro2.jpg
東京花子	H4.8.20	c:\tmp\tokhana.jpg	

基本はフルパスで指定します。

ファイル名のみ指定した場合は、指定フォルダにあると見なされます。  
(この場合は、C:\test\osakataro1.jpg、C:\test\osakataro2.jpg がアップロードされます)

## 6. アドイン関数の呼出し

VBAからのアドイン関数の呼び出し仕様について記します。

### 6.1 kintoneからのデータ取得

関数名	kExGetKintoneData		
説明	設定シートを指定して、kintoneからExcelシートへデータを取得する		
注意事項	①一覧の場合、取得したデータをどの行から移送するか、設定シートの一覧表NEXT行番号を必ず指定してください。 ②一覧の場合、設定シートのオフセットと最大取得件数を指定するか、または最大取得件数に「ALL」を指定してください。 ③一度の呼出しで取得できるレコード数は最大500件です。(ALL以外の時) ALL以外で500件以上のレコードを取得する場合は、繰返して呼出して下さい。		
呼出し方	rc = kExGetKintoneData(paramSheetName)		
引数	paramSheetName	String	設定シート名
戻り値	rc	Long	処理結果
		0: 正常に処理された -1: 対象データが見つからなかった -9: 致命的エラー発生	
サンプル	Sub データ取得実行() Dim rc As Long Dim ParamSheetName As String ParamSheetName = "一覧用設定シート" rc = kExGetKintoneData(ParamSheetName) If rc = 0 Then MsgBox "取得完了" ElseIf rc = -1 Then MsgBox "データがありません" Else MsgBox "エラー発生" End If End Sub		

### 6.2 kintoneへのデータの登録・更新

関数名	kExPutKintoneData		
説明	Excelシートの内容で、kintoneのデータを登録・更新する		
注意事項	①登録、更新、登録／更新をモードパラメータで指定してください。 “M”は既存レコードの更新、“A”は新規レコードの登録、そして“U”は、kintoneにKEYの一致するデータがあれば更新、なければ登録となります。 ②更新データにはレコード番号(タイプ: RECORD_NUMBER)の項目が必須です。 ③あれば更新、なければ登録のモードで呼び出す場合、設定シートには、レコードをユニークに決定するためのKEY項目の指定(複数可)が必須です。 ④設定シートで指定した対象シート名で対象シートを追加し、そこに登録・更新するデータを作成しておいてください。 ⑤一覧の場合、設定シートに対象レコード行番号または「ALL」を指定してください。 指定された対象レコード行番号のデータのみが登録・更新されます。 ALLの場合は、対象シートにある全データが対象となります。 ⑥一度の呼出しで登録／更新できるレコード数は最大100件です。(ALL以外の時) ⑦返却レコード配列の要素数には最大レコード数以上を指定してください。 ⑧返却レコード配列には、登録されたレコードのレコード番号、および更新されたレコードのリビジョン番号が整数配列で返却されます。 ⑨「ALL」指定の場合は、どの行から始まるか、一覧表NEXT行番号を必ず指定して下さい。 ⑩新規登録の場合、レコード番号項目の内容は空白でかまいません。		
呼出し方	rc = kExPutKintoneData(pMode, ParamSheetName, recIDs)		
引数	pMode	String	処理モード(“M”または“A”または“U”)
	paramSheetName	String	設定シート名
	recIDs()	Long	返却レコード配列





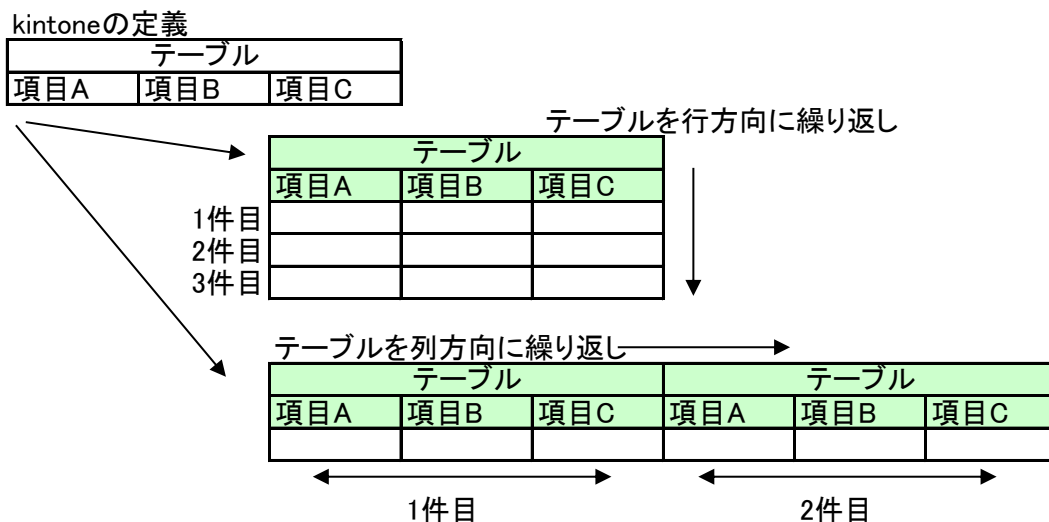
## 別紙 既知の問題点・制限事項

### 1. Excel連携アドインで取り扱いえない項目

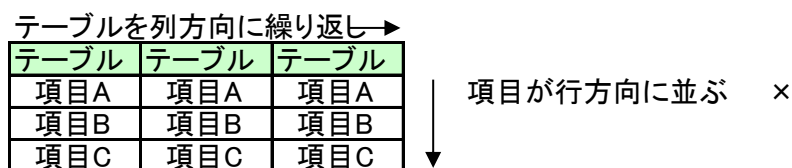
- ・アドインの制限やkintone APIの仕様により、アドインでは取り扱いえない項目や、取得はできても、登録・更新のできない項目があります。  
詳しくは「項目仕様」の「Excel連携での扱い」欄を参照してください。

### 2. テーブルの扱いの制限

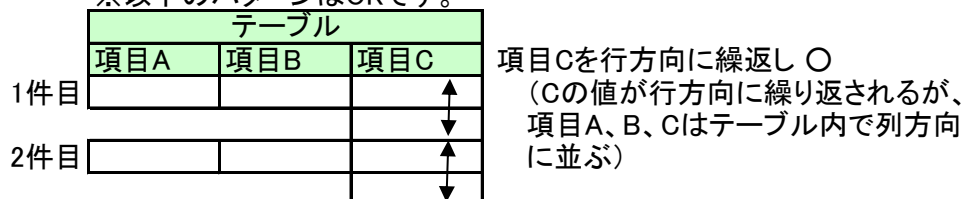
- ・連携アドインでのkintoneのテーブルの扱いについては、アドインマニュアルのそれぞれの説明を参照してください。
- ・連携アドインでは、単票、一覧表のいずれの場合でも、テーブルを行方向、列方向のどちらかに繰り返すことができますが、テーブルの中の各項目は、つねに列方向に並ぶことを想定しています。



※上記2つのパターンのテーブルは想定していますが、下記のパターンは想定していません。



※以下のパターンはOKです。



### 3. 検索の制限

- ・作成者、更新者、ユーザ選択、組織選択、グループ選択の項目には検索キーの指定ができません。
- ・検索と登録・更新を同じ設定シートを用いるとき、登録・更新ではテーブル内の項目や複数選択項目などユニークにならない項目はKEY指定できないため、注意が必要です。  
検索ではこれらの項目もKEY指定できます。
- ※ V2.30からは、検索のみで使うKEY項目には「SKEY」、更新のみで使うKEY項目には「UKEY」と指定できるようになりました。従来の「KEY」は検索・更新両方で使用されます。
- ・自由検索条件欄を使用すれば、kintoneで可能な全ての検索条件を指定可能ですが、アドインでは妥当性をチェックしませんので、利用者責任でご利用ください。
- ・自由検索を指定した場合、KEY値による検索は行われません。

#### 4. 設定シートの記入ミスによる実行時エラーの発生

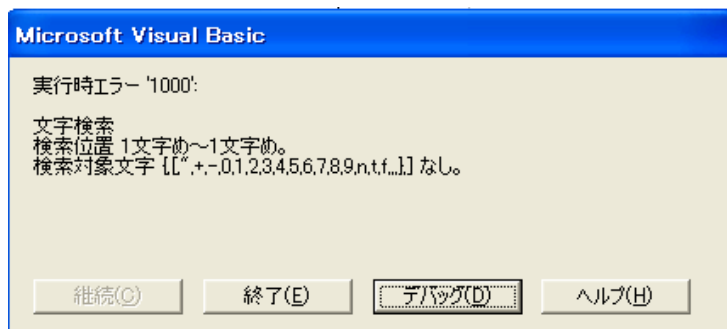
存在しないフィールドコードを指定したり、タイプや繰り返しの設定に矛盾があったり、Excel連携で扱えない項目を指定したような場合、実行時にVisual Basicの実行時エラーが発生することがあります。この場合は、Excelを終了して、設定シートの記述が正しいか、チェックしてください。

※ VBの実行時エラーが発生した場合、マウスカーソルは処理中の形状のまま残りますが、Excelの操作は可能です。そのまま終了させてExcelを再起動してください。



#### 5. 複数アカウントの同時使用による実行時エラーの発生

- ・Excel連携アドインからkintoneに同時にアクセスできるユーザアカウントは1つだけです。
- ・ログイン名の異なる複数の設定シートを1つのブックにもつことはできますが、一度kintoneにアクセスした後で、違うログイン名の設定シートを使うと、Visual Basicの実行時エラーが発生します。
- ・複数のアカウントを使い分ける場合は、いったんExcelを終了して起動しなおす必要があります。
- ・この現象は、1つのブックに複数のアカウントを持つ場合だけでなく、別のExcelブックに異なるアカウントを持つ場合でも、同じアドインを共有する1台のPCで同時に起動してアクセスした時同様に発生します。



#### 6. アドイン処理中にExcelブックを切り替えた場合の誤動作

- ・アドイン関数が処理中の状態で、アクティブなExcelブックを他のブックに切り替えると、実行時エラーが発生したり、他のブックにも同じ名前のシートがあった場合は誤動作したりする可能性があります。

#### 7. Excel 64ビット版での制限

- ・本アドインは32ビット版Excelで開発しており、64ビット版Excelでは動作しません。OSは64ビット版でもかまいませんが、Excelは32ビット版をインストールしてください。
- ※ V2.30からは、64ビット版Excelにも対応しました。同じアドインがどちらのExcelでも利用できます。

#### 8. アプリのJavaScriptとの関係

- ・アドインによりアプリのデータを登録・更新するとき、アプリに定義した登録・更新時に動作するJavaScriptは起動されません。入力されたデータをJavaScriptで編集して登録するようなアプリの場合、アドインではその処理をExcel側で行い、処理後のデータで登録・更新する必要があります。

別紙 kintoneアプリ「フォームの設定」で設定する項目の仕様

■自動設定される項目

フォームの設定 の名称	タイプ	繰り 返し	下位の 構造	下位の値	テーブ ル中に 記述	Excel連携での扱い		備考
						参照	登録・ 更新	
レコード番号	RECORD_NUMBER	なし	なし	—	×	○	×	更新時はキーとなる
リビジョン番号	REVISION	なし	なし	—	×	○	△	更新時は設定した値がチェックに使われる。フィールドコードは\$revision
作成日時	CREATED_TIME	なし	なし	—	×	○	×	UTC形式（YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ） （Excel連携を使えば、日本時間 YYYY/MM/DD HH:MM に変換される）
更新日時	UPDATED_TIME	なし	なし	—	×	○	×	UTC形式（YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ） （Excel連携を使えば、日本時間 YYYY/MM/DD HH:MM に変換される）
作成者	CREATOR	なし	あり	code	×	○	×	レコード作成者の（kintone上の）コード
				name				レコード作成者の（kintone上の）名前
更新者	MODIFIER	なし	あり	code	×	○	×	レコード更新者の（kintone上の）コード
				name				レコード更新者の（kintone上の）名前

■作成者により選択可能な項目

フォームの設定 の名称	タイプ	繰り 返し	下位の 構造	下位の値	テーブ ル中に 記述	Excel連携での扱い		備考
						参照	登録・ 更新	
文字列（一行）	SINGLE_LINE_TEXT	なし	なし	—	○	○	○	
文字列（複数行）	MULTI_LINE_TEXT	なし	なし	—	○	○	○	Excel上ではセル内改行で扱う
リッチエディター	RICH_TEXT	なし	なし	—	○	○	△	ExcelではHTML文字列として取得される。そのままの形で更新は可能
	RICH_TEXT(EXCEL)	なし	なし	—	○	○	×	Excelの文字装飾に変換して取得。更新はできない（アドイン独自項目）
数値	NUMBER	なし	なし	—	○	○	○	
計算	CALC	なし	なし	—	○	○	×	kintoneでの計算結果。更新はできない
ラジオボタン	RADIO_BUTTON	なし	なし	—	○	○	△	kintoneに定義された値でないと更新できない
チェックボックス	CHECK_BOX	あり	あり	value	○	○	△	kintoneに定義された値でないと更新できない
複数選択	MULTI_SELECT	あり	あり	value	○	○	△	kintoneに定義された値でないと更新できない
ドロップダウン	DROP_DOWN	なし	なし	—	○	○	△	kintoneに定義された値でないと更新できない
日付	DATE	なし	なし	—	○	○	○	Excel上では YYYY/MM/DD
時刻	TIME	なし	なし	—	○	○	○	Excel上では HH:MM
日時	DATETIME	なし	なし	—	○	○	○	UTC形式（YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ） （Excel連携を使えば、日本時間 YYYY/MM/DD HH:MM に変換される）
添付ファイル	FILE	あり	あり	file	○	○	○	Excel連携で複数ファイルのダウンロード、アップロードが可能
リンク	LINK	なし	なし	—	○	○	○	Excel上ではハイパーリンクではなく文字列として扱われる
ユーザー選択	USER_SELECT	あり	あり	code	○	○	○	選択されたユーザの（kintone上の）コード
				name	○	○	×	選択されたユーザの（kintone上の）名前。更新はできない
組織選択	ORGANIZATION_SELECT	あり	あり	code	○	○	○	選択された組織の（kintone上の）コード
				name	○	○	×	選択された組織の（kintone上の）名前。更新はできない
グループ選択	GROUP_SELECT	あり	あり	code	○	○	○	選択されたグループの（kintone上の）コード
				name	○	○	×	選択されたグループの（kintone上の）名前。更新はできない
ルックアップ	SINGLE_LINE_TEXT	なし	なし	—	○	○	△	ルックアップで他からコピーされる項目は更新できない
関連レコード一覧	REFERENCE_TABLE	なし	なし	—	×	×	×	Excel連携アドインでは扱いません
テーブル	SUBTABLE	あり	あり	フィールドコード	—	○	○	

■ワークフロー機能使用時に自動設定される項目

アプリのフィール ドコード	タイプ	繰り 返し	下位の 構造	下位の値	テーブ ル中に 記述	Excel連携での扱い		備考
						参照	登録・ 更新	
ステータス	STATUS	なし	なし	—	×	○	×	kintoneで定義されたステータス値。更新はできない
作業者	STATUS_ASSIGNEE	あり	あり	code	×	○	×	kintoneで定義された作業者コード。更新はできない
				name	×	○	×	kintoneで定義された作業者名。更新はできない

■カテゴリー機能使用時に自動設定される項目

アプリのフィール ドコード	タイプ	繰り 返し	下位の 構造	下位の値	テーブ ル中に 記述	Excel連携での扱い		備考
						参照	登録・ 更新	
カテゴリー	CATEGORY	あり	あり	value	×	○	×	kintoneで定義されたカテゴリー値。更新はできない

※関連レコード一覧にはExcel連携アドインは対応していません。  
※レコード番号、作成者、更新者、作成日時、更新日時、計算の項目は、kintoneの仕様で登録・更新できません。  
※添付ファイルの下位の値「file」はExcel連携独自のものです。Kintone上には存在しません。  
※ルックアップの項目を参照するためには、ルックアップ先の項目がkintoneで「重複不可」に設定されている必要があります。  
※リビジョン番号の数値は、kintoneから取得したものをそのまま更新で使います。Excel側で変更すると正しくチェックできません。



## 別紙 設定シート

## 単票用設定シート

Excel-Kintone連携設定シート			【表題】:	2.3 版(単票用)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			</
----------------------	--	--	-------	------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

## 一覧表設定シート

Excel-Kintone連携設定シート

1. 接続パラメータ

パラメータ

アプリケーションIDの値

ドメイン名（サブドメイン.cybozu.com ※ゲストスペースの場合は最後に「#スペースID」をつけること）

「ログイン名/パスワード」(BASE64) 空白の場合は、実行時にログインダイアログを表示します。

「Basic認証ユーザー名/パスワード」ここでは指定しないが、実行時にBASIC認証が必要な場合「必要」と記入して下さい。ログインダイアログを表示します。

ライセンスキー

2. 実行結果

エラー発生時の返却データ

↑自由に検索条件を指定する場合、ここにkintoneの検索条件式を書きます。ここに条件式を書いた場合は、下記のキー項目・キー値の指定は無視されます。

3. KintoneフィールドコードとExcel連携指示【一覧用】

項目名称  
人間がわかるような項目説明。省略可。

kintoneフィールドコード  
対象とする項目のみフィールドコードを定義とおりに記入。サブテーブルの項目を利用する場合は、01レベルにテーブル名が必要。チェックボックス、複数選択、作成者、更新者などの場合、上位レベルにそのフィールドコードを指定し、実際の値のフィールドコードは「value」を指定すること(作成者・更新者の場合は、「code」または「name」)。  
添付ファイルの場合は、上位レベルにフィールドコードを指定し、その下位に「file」で指定すること。  
※登録・更新のできない項目もあるので、それらは対象外とする。

レベル  
単一項目は空白(または01)。サブテーブルなど下位項目がある時、01、02、03で指定  
  
繰り返し  
サブテーブルなど複数データがある時、集団項目に時指定。行を下に繰り返す時「列nnn」、右に繰り返す時「列nnn」と指定。Nnnは繰り返しの最大数(1でも可)。  
フィールドのデータがそれより多い時は、そのデータは無視される。  
更新時に、実際のデータがそれより少ない時は、空白セルとしておくこと。  
繰り返す、1セルに区切り文字aで区切って結合させる時は、「結a」と指定する。  
※添付ファイルの場合、1つの項目に複数ファイルが添付可能なので、繰り返しを指定すること(結以外)で。

タイプ  
kintoneの項目タイプ(TYPE)をそのまま指定する。  
CHECK BOXなどのvalueや、CREATORなどのname、code、添付ファイルのfileについてはタイプを指定しない(空白とする)。  
既存レコードの更新がある場合は、レコード番号が必須で、レコード番号項目は「RECORD NUMBER」と指定する。  
  
添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードするファイル名につける付加文字(プレフィックス)をどの項目から付加するか、そのフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合はレコード番号がファイル名に付加される。(「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)

キー項目  
検索のキーとなる項目に「SKEY」を指定。検索条件値をキー値に指定する。キー値が空白の場合は検索条件とならない。  
「登録／更新」を実行する場合は、レコードをユニークにするキー項目(複数可)に「UKEY」を指定する(「登録／更新」時には必須)。  
  
検索・登録/更新のどちらでもキーとなる項目には「KEY」を指定する。  
  
テーブル中の添付ファイルの場合、file項目の行に、テーブルのどの行のファイルかを識別する付加文字(プレフィックス)のフィールドコードを指定する。ここにはどのレコードの添付ファイルかを識別できる項目を指定する。指定のない場合は行の連番がファイル名に付加される。(「-」半角ハイフンを指定するとプレフィックスなしでダウンロードされる)

キー値  
検索のキー項目に対するキー値を指定する。検索のたびに、プログラムから設定すれば良い。レコードが見つかった場合、戻り値0、見つからなかった場合は-1が返る。  
(登録・更新時には意味なし)

シート名  
検索時は、取得したデータの送り先シート名。更新時は更新データのある送り元シート名。  
サブテーブル名など集団項目の場合は空白。  
検索のキー項目とするが、Excelシートには表示しない項目の場合も空白とする。

対象セル(列番号)  
対象シート上の、列を1とする列番号。繰り返しが「列」の時は先頭の列番号。  
  
※列番号でなく、列名(A、Bのような)で指定してもかまいません。  
  
ダウンロードフォルダ名  
添付ファイルの場合、file項目の行に、ダウンロードして保存するPCのフォルダ名を指定する。  
「C:\AAAVBBB」のように、ドライブ名から指定すること(最後のVは不要)  
(ここに「-」半角ハイフンを指定するとファイルのダウンロードは行わず、ファイル名だけが取得される)  
  
※アップロードの場合、対象のファイル名は対象シートのセルにフルパスで指定する。ファイル名にはフィールドカードが使用可能。ただし、「-」で区切って複数ファイルを指定可能。

更新対象外  
登録・更新の対象としない項目には「X」を指定する。また「C」を指定するとコメント行となる。

【表題】:

【オプション】:

↑ 実行時オプション(複数ある場合はカンマで区切る)を指定します。  
BAR ALL指定でのデータ取得・更新において、処理状況をプログレスバーで表示します。ただし取得時の%は、アプリの全レコード数に対する数字です。  
PICTURESIZE=nxm 画像ファイルのダウンロード時、一覧用のセルに貼り付ける画像のサイズを横x縦のポイント値で指定します。規定値は100x100です。画像を貼り付けない場合は、NOPICTURE を指定します。  
RICHFONT=n RICH\_TEXT(EXCEL)の変換時の基準フォントサイズを指定します。規定値は 11 です。  
NOMSG 指定すると、アドインで致命的エラーが発生した時、そのメッセージをダイアログで表示せず、エラー発生時の返却データのセルにエラー値の設定のみを行います。表示は呼出し側で行う必要があります。  
LOG 指定すると、アドインの実行ログを、このシートの右側のセルに表示します。

4. 1 複数レコード一括更新設定(Put時指定)  
・一覧表から、複数レコード一括登録・更新の場合は、下記の対象レコード行番号を指定してください。  
・1レコードが複数行になる場合は、その先頭行番号を指定します。  
・1度に登録・更新できるレコード数は最大100件です。  
・対象レコード行番号に「ALL」を指定すると、対象シートの一覧表NEXT行番号から、シートの最後まで全件が登録・更新対象となります(100件以上でも可)。

4. 2 複数レコード一括取得設定(Get時指定)  
・複数レコード一括取得の場合は、下記オフセットと最大取得件数(MAX500)、一覧表NEXT行番号の初期値を指定してください。  
・最大取得件数に「ALL」を指定すると、500件以上あっても全件を一度に取得します。  
・対象シートにある既存のデータは(画像を除き)自動では消去されません。  
データのあるセルのみが上書きされます。事前にクリアしてから実行してください。(ALL指定の場合は自動でクリアされます)

対象レコード行番号: (0～)

最大取得件数: (1～500 またはALL)

一覧表NEXT行番号: ←対象シートの一覧表NEXT行番号(初期設定必須！)

実取得件数: ←実際に取得された件数

複数レコード一括処理の時、各レコードごとの一覧表項目を指定します。検索時は、一覧表NEXT行番号を初期値として、取得レコードごとに行が追加されます。  
登録・更新時は、対象レコード行番号で指定された行のデータをレコードとして登録・更新します。

※不足する場合は行を追加すること(最後の1行には空白行が必須)。不要な行は削除しても良いが、1行目だけは必須(A列に1が入っていること)。